

人権研修会「事例学習」～若槻小学校の取り組み～

8月29日(土)に若槻小学校の吉澤修一校長先生をお招きし「思いやる心、実践力を育てる学校づくり～若槻小学校の人権教育」という演題で講演会を行いました。

とても暑い中、また、新型コロナウイルス感染が、広がりがつある中でしたが、感染対策に配慮して、予定していた期日に開催することができました。

講師の先生は、たくさんの資料を用意され、わかりやすくお話をすすめられました。以下、主な内容です。

学校ではあらゆる機会をとらえて人権教育が行われています。6月には「なかよし月間」を設けました。「友達と自分を大切にしよう～自分からふわふわ言葉を伝えよう」というテーマで何気ない日常の言葉遣いにも相手に快い感じを与えるものとそうでないものがあり、話し言葉について見直そうという取り組みをしました。校長講話では、「赤鼻のトナカイ」の話をもとに自作のお話に映像を交えて、見た目での人の価値を判断せずにその人の素敵なところに気付けるような心豊かな人になってほしいと呼びかけました。人権

教育の高まりには、挨拶が大切であるということから、挨拶を広めるための活動の方法を児童が自分たちで考え、実践した結果、児童の間に明るい挨拶が交わされるようになりました。

前例にないこととして、今年度は新型コロナウイルスの感染予防対策がありますが、行事の三密回避のために、運動会を低、中、高学年の3回に分けて行う、6年生の修学旅行は東京を取りやめ、新潟県にするなど様々な工夫をしました。

お話を伺う中で、大変な状況の中でも児童が少しでも思い出に残る学校生活が送れるようなご配慮に先生方のご苦労がうかがわれました。

ご参加の皆様が熱心に耳を傾けられ、今後人権意識の向上について考えていこうとする意欲が伝わるような講演会でした。
(人権教育部会)



第4回ながの獅子舞フェスティバル開催

9月19日(土)、次世代への伝統芸能の継承、地域と世代を超えた交流を目指し、コロナ禍で長野市内外24団体が善光寺参道(中央通り)・長野駅前広場にて獅子舞を披露しました。

若槻地区からは「諏訪神社徳間神楽保存会」、「蚊里田八幡宮祭り保存会」の2団体が参加、大人と子どもの獅子舞を披露し、観客からは盛大な拍手が送られました。(若槻地区神楽保存会連合会)



千石入口前
蚊里田八幡宮祭り保存会



長野駅前広場
諏訪神社徳間神楽保存会

和63年頃の稲田一里塚(一里塚公園内にあり)付近の3枚の写真を、5年ほど前に亡くなった父のアルバムで見つけたことでした。それは、この付近で第三次区画整理が始まる前の「南北2つの塚と南塚近くを流れる小川」の写真でした(写真1～3)。

一里塚のことは、北国街道400年記念事業で調べた時、長野縣町村史 北信篇(昭和11年発行)の稲田村の頂の【古街道】の記述に「一里塚道の左右に並列す、高さ二間周囲二十三間、道の南塚の上に松樹二株あり、其樹下に大神宮を祭れる石祠あり」とあり、2つの塚と小川が書かれた昔の絵(絵1)があることも知っていました。塚は有名だからホームページなどにも沢山出ているが小川の写真(写真3)は見たことがなく、よくぞ撮っておいてくれたと思いましたし、このような情報を若槻として保存し、共有していくべきだと心底思いました。それからは私も事あるごとに「受難を受け続けた松／一里塚」の写真を撮ってきました。

シンボルともなっていた南塚の立派な松が、平成26年(2014年)12月23日の大雪で枝が折れてしまいました(写真4)。翌年



(写真4)平成26年の雪害
○部が折れて落ちた所



(写真5)平成27年の雪害
○部が折れて無くなった部分



(写真6)平成28年1月の伐採
(一枝を残した姿)



(写真7)新たな芽(平成28年6月)

の12月にも大雪に見舞われ、更に枝が折れ、太い幹にも亀裂が入りました(写真5)。この赤松は天目松と呼ばれる種類で、枝がたれて幹がねじれる性質もあり幹が裂けて倒木の心配もあるとの樹木医の診断もあり、翌年1月に、とうとう1枝を残した哀れな姿になりました(写真6)。木も古く昔の様な隆盛を望むことは出来ないとのこともあり、同年3月に思い切り伐採をして、新しい天目松を植えました(写真7)。

また、1月に伐採した時に松かさから採取した20粒ほどの種を蒔いた所、新しい芽が出てきました(写真8)。今、私の家で大切に育てています。ゆくゆくは長野縣町村史の記載の「南塚の上に松樹二株あり」の通り、今の株の横に1株植えたいと考えています。この様に、松ひとつとっても歴史があり、写真があれば語りつぎ伝えることが出来ます。そんなご家庭に眠る映像を、若槻全体で電子データにして残していく活動を計画しています。



(写真8)

新しく植えた天目松